

渋川市こども発達相談室ニュース 2024年9月号

～最近は始業式の日から給食があるのってありがたいですね～

今月の
テーマ

WISC-Vって何が変わったの？

正式な名称を Wechsler Intelligent Scale for Children といい、このウェクスラー式の検査は最初に作られたバージョンから十数年ごとに改訂されています。日本版WISC-Vが2021年に日本文化科学者から出版され、最近はIVからVへ置き換わってきています。以前はIVで受けたのに、改めて受けたらVになっていた、、、なんてことがあると思います。

今回はそのWISC-Vの何が変わったのか、ざっくりとご説明していきます。

抑えたいポイントは、指標が4つから5つに変化したこと!!

① 言語理解

主に耳で聞き取った言葉の理解とその言葉でのやり取りの力を測ります。この能力が高いと言葉での指示が入りやすく指示を出した側からすれば「意思が通じた」と感じやすかったりしますが、この能力が弱いと言葉でのやり取りでは不十分で、何度も繰り返し伝えても指示が入りにくく伝える側がイライラしてしまうことがあるかもしれません。言葉で伝えるのが難しい分は、図や写真等を使い視覚から補うことで指示が入りやすくなるのが考えられます。

② 視空間 (New)

視覚から得られる空間的な奥行きや角度、色や遠近感、部分的か全体的かといった情報をイメージしたり把握したりする力を測ります。この能力が高いと、学校の授業での板書や教科書を読んでいると的確に情報を把握したり、工作やパズルが得意だったりします。この能力が弱いと、黒板や教科書の指摘された場所が分からなかったり、片付けや探し物が苦手だったり、体育の時間に球技や道具を使ったスポーツがなかなか上達しにくかったりします。お子さんが理解しやすいように、より具体的な指示方法や言葉で補う等、お子さんが理解しやすい方法で提示すると良いでしょう。

③ 流動性推理 (New)

新しい場面で合理的な行動が出来るかどうか、状況に応じた力が出せるかを測ります。この能力が高いと、色々な場面で適応しやすく少しの指示でも状況を推理して期待された行動をすることが出来ます。この能力が弱いと、周りを見ても何をしたら良いか分からず、ポーっとうわの空になったり逆にソワソワ落ち着かなくなることがあります。予め先の見通しを示しておき、こころに余裕を持たせましょう。

④ ワーキングメモリー

見たり聞いたりしたことを一時的に記憶しておく短期記憶の力を測ります。この能力が高いと、授業の内容や指示が入りやすく一度聞いたことを覚えて作業に取り掛かれますが、能力が弱いとそれらがとても苦手になります。覚えられないので何度も同じ指摘をされてしまい、「何回言われても出来ない自分」と自身を責めて自尊心の低下等の二次的な問題に繋がりがやすいです。忘れないうちにメモを取る癖をつけたり、タブレットで記録する等のお子さんに合った対処法を考えて行きましょう。

WISC-Vでは、入力方法の異なる視覚・聴覚両方の情報のワーキングメモリーを測れるようになりました。

⑤ 処理速度

作業を処理するスピードを測ります。この能力が高いと、間違い探しや筆記作業が得意でテキパキとその場の状況に応じた作業が出来ますが、能力が弱いと身支度が遅れたり急かされて失敗したり、物事が嫌になってしまうことがあるかもしれません。そんな時は大人が「待つ」ことが大切です。「時間が掛かっても大丈夫だから落ち着いて正確にやってみよう」と声を掛けましょう。

<渋川に発スタッフF おすすめの本>

※当月参考文献: 合同出版「WISC-V K-ABCⅡ対応版 子どもの心理検査・知能検査 保護者と先生のための100%活用ブック」